

Windowsプラットフォームにマイグレーションして基幹系業務システムの“脱ホスト”を目指す

株式会社ライフコーポレーション



「名実ともに日本一の食品スーパーマーケット」を目指し、顧客のニーズに応える生産性の向上はもちろん、制度改革などの経費削減、効率化に取り組むライフコーポレーション。東京・大阪の両本部に導入されているホストコンピュータの廃止を大目標に、売上情報分析システムや伝票レスシステム、棚割システムなどをWindows上に構築している。そのプラットフォームに採用されたのが日本ユニシスのES7000だ。

業種	スーパーマーケットチェーン
本社所在地	大阪市東淀川区
URL	http://www.lifecorp.co.jp/

- 脱ホストシステムを目指し
- 拡張性の高いES7000に統合

食品を中心としたスーパーマーケットチェーン大手のライフコーポレーションは、首都圏および近畿圏に190店舗を展開している。厳しい経営環境にある流通業界だが、同社は2001年10月に「意識革命評議会」を設置し、競争力の強化に取り組んでいる。「中期計画では、経常利益や荒利確保の高い目標値がある。達成するには営業努力だけでは難しく、システムを活用した情報精度の向上、ロスの回避などの経費削減が必要だ（情報システム部 課長 向江弘幸氏）」とし、物流・情報システムの整備に向けたIT投資を拡大している。

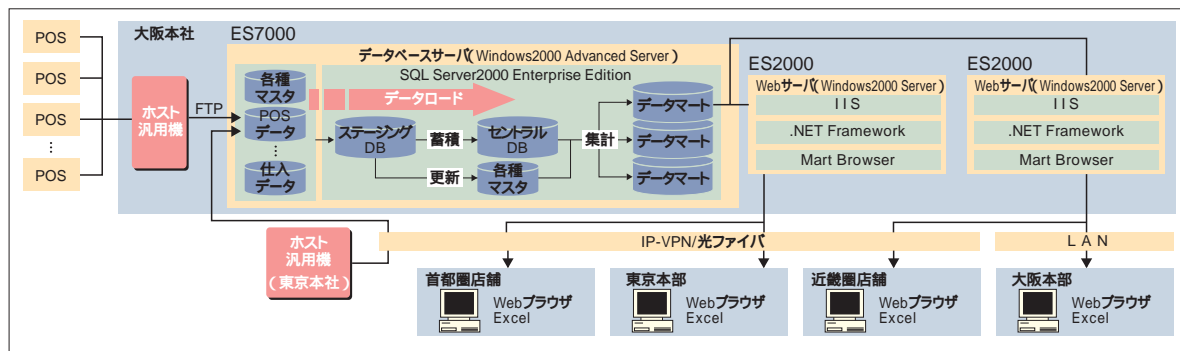
これまで同社は、首都圏本部と近畿圏本部でそれぞれホストコンピュータ中心のシステムを運用してきたが、中期計

画の一環として、各種システムの再構築と新規システムをES7000上に統合し、Webベースのシステムを構築する計画を立てている。

Windowsプラットフォームを選択した動機を、「サーバの信頼性、統合を前提とした拡張性を重視した。また、すでにES7000が安定稼働している同業他社のシステムも評価した（向江氏）と語る。

- DWH、伝票レス、電子帳票システムを
- ES7000上に構築

現在2台のES7000が導入され、最初に導入した1台ではデータサービス、伝票レス、電子帳票の3つのシステムが稼働している。従来AS400上で稼働していた「本部POSメニ



8CPU構成のES7000上には、WebシステムによるDWH、伝票レスシステム、電子帳票システムを統合した

ユー」のデータが、データウェアハウス(DWH)上で分析可能になった。旧システムでは詳細な売上データを扱えないうえ、本部部門からしか閲覧できなかったが、Webベースの新システムでは、単品レベルで店舗別、日別にデータ分析が可能になった。また、各店舗の担当者にまでサービスを提供、分析レスポンスも飛躍的に向上している。8CPU構成のES7000はデータベースサーバとして、Windows2000 Advanced ServerとSQL Server2000 Enterprise Editionが稼働。フロントエンドのWebサーバは、Windows2000 Serverを搭載したES2000を導入。DWH構築ツールとしては、日本ユニシスの「MartSolution」を採用している。

また、伝票レスシステムは、商品の売価変更や店舗間振替、返品時に発生する伝票・帳票の廃止を目的に開発された。従来はその都度伝票を書き起こし、パンチセンターに送付してデータ入力を待つという手間があった。同システムの導入後は、端末やWeb画面からデータを直接投入できるようになり、返品処理ではEDI(Electronic Data Interchange)によって取引先と直接データをやり取りできる。「伝票用紙やパンチセンターの人件費など、年間約4,000万円のコスト削減を実現。店舗担当者の作業時間が大幅に短くなり、返品や売価変更の際のデータ精度も格段に高まった。情報システム部 システム開発担当 課長代理 中井豊美氏」と、その導入効果を強調する。

同システムの特徴は、.NET Frameworkを採用したWebベースシステムにした点だ。3階層アーキテクチャの実現によりメンテナンス性、拡張性の向上やデータベース連携が容易になったほか、約190店舗で利用されるクライアントの運用管理コストが削減できた。

ES7000導入により 加速する脱ホスト

もう1台のES7000では、各店舗のストアサーバ/POSサーバとのデータ集配信機能やレシート情報を管理する電子ジャーナル機能を担う東芝テックの「NS-1」(ネットワークサーバ)と、各店舗の商品棚データを管理する棚割システムを構築した。

従来はホストコンピュータとストアサーバ間でPOSデータや売価変更データ、顧客データ、クレジットデータなどをFTPによるバッチ処理でやり取りしていたが、「トラフィックが多い時間帯だと、2時間かかっても配信できないことがあった」と言う(中井氏)。それが、ES7000をネットワークサーバに導入後は、「すべてのデータを約10分程度で配信できる。また、売上データの一部はホストを介さず直接データサービスシ



ライフコーポレーションには2台のES7000が導入され、一方はDWH・伝票レス・電子帳票システム、もう一方では各店舗のPOSデータの管理や棚割システムなどが構築されている

テムに接続され、最新情報の更新・分析が可能になった」(同氏)と、機能向上を実感している。

棚割システムでは、アイコンCEPTの「店POWER」「棚POWER」というパッケージを採用して、店舗別、棚別の商品をビジュアルで管理している。「従来はバイヤーが棚の商品を確認し、商品コードをすべて手入力してホストで管理していた。作業効率が格段に向上したし、棚割から分析まで視覚的に比較検証できるようになったことが大きい」(向江氏)と導入効果を指摘する。

今後は、棚割システムと連携して商品補充できる自動発注システムや、取引先とのWeb EDIなどを順次開発し、ES7000上に統合していく計画だ。また、東西の本部に導入されているホストコンピュータを廃止すべく、基幹システムをES7000にマイグレーションなど、“脱ホスト”化に向けて取り組んでいくという。

(取材/文 増田克善)



情報システム部 課長 向江 弘幸氏



情報システム部システム開発担当 課長代理 中井 豊美氏